

## 今回の話題 調査データの分析から活路を見いだそう!!



8月、令和4年度の「全国学力・学習状況調査」の調査結果が報告されました。とかく世間では各教科の正答率が話題になりますが、ICT推進班では「児童質問紙」、「生徒質問紙」、「学校質問紙」の調査結果に注目しています。

実は昨年度からICT活用に関する内容が増えているのですが、「そこからICTの利活用を充実するヒントが見いだせるのでは…!?!」そんなことを考えながらデータを見つめていると『ICT活用充実のポイント』が見えてきました!?

分析の視点や結果をどう見るかは人それぞれかもしれませんが、一つの考え・可能性として、参考にしたり、たたき台にしたりしていただけたらうれしいです。

### トピックス① 質問内容から見えてくるもの…

上でも書いたように、昨年度からICT活用に関する質問内容が増えています。その内容を見ると、ICTの活用によってどんなことが期待されているのか、どんな場面で活用を充実していけば良いのかがわかります。そこで3つの場面で整理してみました。

#### 1つ! 校務の効率化(事務の軽減)

- ①児童生徒の出欠・遅刻に関する事務
- ②家庭への調査等に関する事務(個人面談等の日程調整や学校評価アンケートなど)
- ③学校からのお知らせ(学校通信等)
- ④教職員等会議に関する事務
- ⑤教職員の書類作成等その他の事務



#### 2つ! その他の活用場面

- ①どの程度家庭で利用できるようにしているか。
- ②家庭におけるオンラインを活用した学習にどの程度活用しているか。
- ③生徒のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認にどの程度活用しているか。
- ④児童生徒の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用しているか。
- ⑤不登校児童生徒に対する学習活動等の支援にどの程度活用しているか。
- ⑥特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援にどの程度活用しているか。

#### まずは試しにペーパーレスに、しな〜い?

職員会議や研修の資料の準備作業、大変ですよ。Google ClassroomやMicrosoft Teamsでデータを共有するなどしてペーパーレス化を図ってみませんか?

「教育の情報化」フォーラムでも資料のペーパーレス化を図りましたが、印刷業務に要する時間を他の作業に充てることができました。県内でも取り組んでいる学校もあるようです。

Google ClassroomやMicrosoft Teamsの活用方法の情報は、県総合教育センターに特設ページがありますので、右の二次元コードからアクセスして是非ご覧ください。



#### 3つ! 授業での活用場面

- ①授業でどの程度活用したか。
- ②児童生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)で、どの程度使用させたか。
- ③発表・表現する場面で、どの程度使用させたか。
- ④教職員と児童生徒がやりとりする場面で、どの程度使用させたか。
- ⑤児童生徒同士がやりとりする場面で、どの程度使用させたか。
- ⑥児童生徒が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施したか。

#### 家庭への持ち帰り学習を進めてみませんか?

現在はかなり準備が進んでいるとは思いますが、全国学力・学習状況調査実施時の「家庭でどの程度利用できるようにしているか」という質問に対して、本県の結果(割合)は小学校で2.7%(全国41位)、中学校で2.9%(全国43位)という状況でした。

県内での家庭への持ち帰り学習の事例を見ると、「ドリルでの自主学習」や「調べ学習」、「観察記録」など、取り組みせ方は様々ですが、「個のペースで学習できる」、「端末操作のスキル向上」、「親子での取組の増加」などの成果が見られたようです。

「教育の情報化」フォーラムで取組を発表した実践市町村の資料を、「KagoGIGA 情報交流室」で配信中です。是非、登録の上、ご覧ください。

「授業での活用画面」の「次の一手!!」は裏面の内容と併せて紹介

# トピックス② 鹿児島県の先生方のマインドセットが変わってきた!!

分析というと「改善点探し」だけに走りそうですが、頑張っているところもたくさんあります。「他県と比べてどうなのかな。」という視点でまとめてみると、本県の先生方の頑張りが見えてきました。

学校質問紙（小学校）

No.	質問内容	ほぼ毎日		
		本県の割合	全国の割合	全国比
(59)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	64.5	58.2	+6.3
(60)	調査対象学年の児童が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	28.7	21.2	+7.5
(61)	調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	27.0	13.7	+13.3
(62)	教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	30.9	22.6	+8.3
(63)	調査対象学年の児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	21.0	11.3	+9.7
(64)	前年度に、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか	2.3	0.9	+1.4

学校質問紙（中学校）

No.	質問内容	ほぼ毎日		
		本県の割合	全国の割合	全国比
(57)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	47.8	58.2	-10.4
(58)	調査対象学年の生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	23.4	22.6	+0.8
(59)	調査対象学年の生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	18.2	14.6	+3.6
(60)	教職員と調査対象学年の生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	24.9	21.9	+3.0
(61)	調査対象学年の生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	13.9	10.2	+3.7
(62)	前年度に、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、生徒が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか	3.3	0.7	+2.6

左の各項目は、ICT機器の様々な活用場面ごとの使用頻度を調査したものです。なんと、ほとんどの項目で全国平均を上回っています。

このことから、本県の先生方の意識が、ICTを「ただ使う」から「効果的に活用する」に向かっており、様々な活用方法を模索し始めているのではないかと分析することができます。

指導方法に対するこれまでのマインドセットを変えることは、なかなか容易にできることではないかもしれませんが、小規模、複式、離島・へき地等、様々な教育環境の中で培われてきた本県の先生方の教育実践の広さ、柔軟性が発揮されている結果ではないかと感じることでした。



# トピックス③ さあ、次の一手!! ポイントは『学ぶこと』を子供たちに任せる!!

右のグラフは、学校と児童生徒のそれぞれに、「授業でどの程度ICT機器を活用したか。」を尋ねたものです。その結果、小・中の平均値の折れ線の反り方が異なっていることから分かります、それぞれの認識には大きな隔りがあることが分かりました。

このことから、先生方は様々な場面でICTを活用しているが、子供たちはICTを使って「学び」を深めたという実感をもてていないのではないかと分析しました。

そこで、次の一手として、ICTを使って「学ぶこと」をもう少し子供たちに任せてみては?と提案させていただきます。

例えば、学習支援アプリで子供たち全員の考えを短時間に集約できますが、その後はどうでしょうか。先生が大型提示装置等で共有し（見せ）たりまとめたりして終わり…という感じにはなっていませんか?

それでは子供たちは自分の考えを送信しただけに過ぎません。友達のを受信して類型化したり考えを見直したり、自分で端末等を操作して試行錯誤する中で自分なりの答えを見いだすことで、子供たちはICTを使って学びを深めたという実感を得られるのではないのでしょうか。

ICTを使った「学び」の全てを教師がコントロールする必要はないかと思えます。これからの「学び」のスタイルにおいて私たち教師の役割は、子供たちの「学び」を見取りつつ、授業のねらいに近付けるよう「学び」をコーディネートすることではないかと思うのですが、どうでしょう?



## 次の一手!! 学習支援アプリの共有機能を活用して 子供主体の「協働的な学び」を!!



現在、県内でも様々な学習支援アプリが活用されていますが、その中に共有機能が搭載されているものがあります。是非、この共有機能を使って、子供主体の「協働的な学び」のある授業づくりに取り組んでみていただきたいと思っています。

共有した一人一人の考えを付箋という形で再度取り込んで、シンキングツールで類型化してみたり、共有データを使って共同編集（作成）をしてみたり…児童生徒の双方向のやり取りのある「学び」は、きっと子供たちの学ぶ意欲はもちろん、様々な資質・能力を育成することにつながると思います。